

一誌一句(受贈誌4・5月号他より)

米田透抄出

芽起しの雨に華やぐ三溪園

(蛮)

鹿又英一

追ひ払ったはずの鬼もいて朝餉

(青穂)

小山貴子

雪止んでをりテロップに女王の死

(となりあふ)

箭内忍

足跡は消されゆくもの春渚

(好日)

高橋健文

版元は廃業と知る書のおぼろ

(いには)

村上喜代子

風光るけれど俳句になりまへん

(麻)

嶋田麻紀

秋晴や赤子泣けるといふ平和

(諷詠)

和田華凜

あん饅の餡で火傷し日脚伸ぶ

(春月)

戸恒東人

父の代の灰も残りて春火鉢

(菜の花)

伊藤政美

叶わざる恋のかけらが春の星

(星座)

植野順聞